

事例 小学校図画工作科(絵や立体,つくりたいものをつくる)西濃地区(H小学校)

1 題材について

対 象 学 年	小学校 第4学年
学 習 指 導 要 領	第4学年の内容 A表現(2)及びB鑑賞(1)
題 材 名	段ボールを使って 変身!おもしろ不思議な神様(全8時間)
題 材 の 目 標	積極的に材料にかかわり,材料の特徴を生かし,工夫してつくろうとする。 (造形への関心・意欲・態度) 材料とのかかわりの中で,加工の仕方や装飾の仕方を考える。 (発想や構想の能力) 道具の使い方や,材料の特性の生かし方を工夫して製作する。 (創造的な技能) 自分や仲間の取組や表現のよさがわかり,作品のおもしろさを味わう。 (鑑賞の能力)
配 慮 事 項	基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材の指導計画作成上の工夫 ・材料や表現方法の厳選 ・十分な材料体験や造形体験をする場の位置付け 単位時間における工夫 ・児童が主体的に選び取れる参考資料の提示 ・試しの活動の保障
参 考 資 料	題材への見通しをもつことができる教師作例(第1時) 題材への見通しをもたせる児童作例(第1時) 世界の神様のお面や像の写真(装飾例)(第1時) ローラーによる彩色の効果,色の違いによる感じの違いの比較資料 (第2・3時) 目・鼻・口などの配置の違いによる感じの違いの比較資料(第4時) 段ボールによるいろいろな表現方法(第4時)

2 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
内容のごまとのま評り価規準	<p>【表現】 表したいことを表すために、形や色、材料などを見ることに関心をもち、それらを生かしたり、組み合わせたりして、思いを表す体験を深めることに関心をもち、表すことを楽しもうとする。</p> <p>【鑑賞】 自分たちの作品や身近な造形品などの表し方や材料による感じの違い、よさやおもしろさなどに関心をもとうとする。</p>	<p>感じたこと、想像したことなどをもとに、よさや美しさ、感じたことなどから表したいことを発想し、それに合わせて、美しさや用途などを考え、計画を立てるなど構想をする。</p>	<p>表したいことに合わせて、手などを働かせ、形や色などの特徴やそれらの組合せの感じを生かし、前学年までに経験した材料や用具などの特徴を生かして、表し方を工夫する。</p>	<p>表し方や材料の感じの違いがわかり、親しみある美術作品やその製作の過程などのよさやおもしろさなどについて、話し合うなど関心をもって見る。</p>
題材の評価規準	<p>【表現】 自分の楽しい神様を想像し、思いに合わせて色や形を工夫したり、新たな表現を試みたりしようとする。</p> <p>【鑑賞】 仲間の想像した神様の発想や表し方のよいところに関心をもち、色、形、目や鼻などの部分の作り方のよいところを認め、味わおうとする。</p>	<p>自分がつくりたい神様の様子を想像し、表したい感じに合わせて色や形、部分の作り方を構想する。</p>	<p>自分がつくりたい神様の感じに合わせて、材料や用具、作り方を工夫する。</p>	<p>作品を交流しながら、仲間の表したい感じを理解し、表現のよいところを認め、自分の表現に取り入れる。</p>
学習活動における具体の評価規準	<p>自分らしい神様を考えようと意欲的にアイデアスケッチに取り組もうとする。</p> <p>自分のつくりたい神様のためにふさわしい材料・用具や表現方法を選び取ろうとする。</p> <p>材料や技法の選択・組合せなどの工夫に関心をもち、表現の違いや特徴を感じ取ろうとする。</p>	<p>自分らしい神様のイメージを膨らませ、色や形を工夫しながら、アイデアスケッチや文章で表している。</p> <p>自分の表したい神様の感じがよく出るように、全体の色や形、目や鼻などの部分の作り方や配置を構想する。</p>	<p>段ボールカッターやカッターナイフを正しく安全に使う。</p> <p>表したい感じがよく表れるように、ローラーを適切に使い、効果を生かしながら彩色する。</p> <p>表したい感じに合わせて、段ボールによる表現を生かし、目や鼻、</p>	<p>自他の作品の発想や表し方のよいところを交流し合い、表現のよいところを具体的に見付け、味わう。</p>

			口などの部分をつくったり、飾りを付けたりする。
--	--	--	-------------------------

### 3 指導と評価の計画（全8時間）

#### （1）授業の流れ

第1次 イメージづくり・アイデアスケッチ

第2次 ローラーによる彩色・段ボールによる表現の効果を生かした製作

第3次 鑑賞活動「おもしろ不思議な神様大集合」

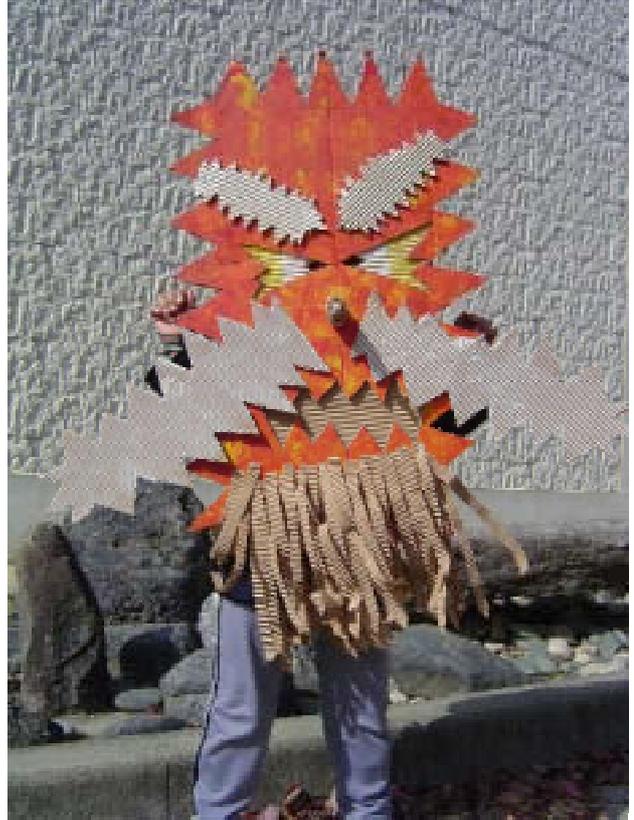
#### （2）題材の指導計画

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	物語の世界に浸りながら、自分のつくりたい神様のイメージを膨らませ、アイデアスケッチができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           変身したい神様を思い描き、表し方を考える。         </div> <p>創作した物語を通して、自分の変身したい神様のイメージを膨らませる。 想像した神様を、アイデアスケッチし、表したい感じを色や形に結びつけ、具体的なイメージをもつ。</p>	<p>&lt;ア - &gt; 自分らしい神様を考えようと意欲的にアイデアスケッチに取り組もうとする。</p> <p>&lt;イ - &gt; 自分らしい神様のイメージをふくらませ、色や形を工夫しながら、アイデアスケッチや文章で表している。</p>	<p>製作カード(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変身したい神様のイメージを豊かに想像しているか。</li> <li>・アイデアスケッチ</li> <li>・想像した神様の感じが表れるように、色や形を試みながら構想しているか。</li> </ul>	<p>作例や世界の神様のお面や像からイメージをふくらませ、そのらしさが表れた多様で楽しい発想ができるようにする。</p> <p>想像した神様のイメージを色や形に結びつけるために、色や形のもつイメージを振り返らせたり、資料を参考にすることや、仲間との交流を促す。</p>
2	段ボールを切り取り、ローラーによる彩色のよさを生かしながら、表したい感じ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           神様の輪郭を切り取り、ローラーを使って彩色する。         </div> <p>アイデアスケッチをもとに、感じが表れるような形を考えながら、土台になる段ボールを切り取る。</p>	<p>&lt;ウ - &gt; 段ボールカッターやカッターナイフを正しく安全に使う。</p> <p>&lt;ウ - &gt; 表したい感じがよく表</p>	<p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カッターやローラーの使い方は正しいか。</li> </ul> <p>作品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じにあ</li> </ul>	<p>正しい使い方を確かめるとともに、十分ではない児童には個別に指導をする。</p> <p>資料とつなぎながら、色の</p>
3					

	に合わせ て彩色す ることが できる。	色の感じによるイメージの 違いや、ローラーによる彩 色のよさに気付き、効果を 生かしながら彩色をする。	れるように、 ローラーを 適切に使い、 効果を生か しながら彩 色する。	った色を選んだり、 塗り方を 工夫したりしているか。	違いや塗り方 の違いによる 感じの違いに 気付くように アドバイスを する。
4 5 6 7	表したい 感じにな るように、 段ボール による多 様な表現 の効果を 生かし、 目や鼻な どの部分 をつくら たり、配 置を工夫 したりす る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>感じがよく表れるように、 段ボールの特徴を生かして 部分をつくる。</p> </div> <p>段ボールによる多様な表現 (重ねる・方向・立体的に 立てる)にふれ、効果を生 かして部分をつくる。 表したい感じを出すため には、目や鼻などの部分の 作り方や配置が大切であ ることに気付き、感を確 かめながら製作を進める。</p>	<p>&lt;イ - &gt; 自分の表 したい神 様の感 じがよ く出る ように、 全体の 色や形 、目や 鼻など の部分 の作り 方や配 置を構 想する。</p> <p>&lt;ウ - &gt; 表したい 感じに 合わせ て、段 ボール による 表現を 生かし 、目や 鼻、口 などの 部分 をつくら たり、 飾りを 付けたり する。</p>	<p>作品 ・表したい 感じを効 果的に表 現するた めにつく り方や配 置を工夫 している か。</p>	<p>参考資料を もとに、段 ボールに よる多 様な表 現に目 を向け るよう にアド バイスを する。 表したい 感じに 合うよ うに、 いろい ろな配 置を試 しなが ら製作 をする ように アドバ イスを する。</p>
8	できあが った作品 の交流を 通して、 お互いの 表し方の よいところ を認め 合い、表 現を楽し むことが できる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>みんなでおもしろ不思議な 神様に変身して楽しむ。</p> </div> <p>自分の作り方や取組のよ いところを振り返る。 (自己評価) 仲間の作品のよいところを、 視点を明らかにして見付け 合う。 みんなでかぶって変身して 楽しみ、さらに思いをふく らませる。</p>	<p>&lt;エ - &gt; 自他の作 品の発 想や表 し方の よいと ころを 交流し 合い、 表現の よいと ころを 具体的 に見付 け、味 わう。</p>	<p>製作カ ード・鑑 賞カ ード 発言・観 察 自他の 作品の よいと ころを 感じ取 り、具 体的に 工夫を 見付け ている か。</p>	<p>つくり方 のよい ところ を、視 点(色・ 形・つ くり方 など)を 明らか にして 見付け ることが できる ように アドバ イスを する。</p>



ま と め る	<p>自分の製作の歩みや表し方を振り返り、よさを味わうとともに、次時への意欲と見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品カードの本時の製作前の写真と比べながら、本時の作品の変容を確かめ、表し方や取組のよいところを自覚し、仲間と認め合う。</li> </ul>	<p>【鑑賞の能力】 エ -</p> <p>自他の作品や取組のよいところを振り返る。</p> <p>[振り返りカード・発言]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の工夫や取組のよいところに気付き、発言しているか。</li> <li>・友達の作品に関心をもち、よいところを見付けようとしているか。</li> </ul>	<p>交流を促す。</p> <p>発言の中で、前時との作品の変容を具体的に示し、全員がよいところに気付くことができるようにする。</p> <p>表し方のみでなく、教師の見付けた取組のよい姿も広め、価値付けていく。</p>
------------------	--	--	--



5 評価の実際と個に応じた指導事例

本題材（あるいは本時）の評価と、個に応じた指導の事例を以下のようにまとめた。

「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例、及び「努力を要する」状況（C）と判断した児童がいる場合の指導の指導の具体的な手だてを示している。

授業展開の中で、「学習活動における具体の評価規準」に照らして、個の学習状況を把握することに努める。その際、「努力を要する」状況と判断した児童に対して、学習状況に応じた指導の手だてを講じて、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。それと合わせて、「十分満足できる」状況と判断できる児童の姿が実現されることをめざして、指導・援助に努めていく。

【造形への関心・意欲・態度】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
<p>&lt;アー&gt; 材料や技法の選択・組合せなどの工夫に関心をもち、表現の違いや特徴を感じ取ろうとする。</p>	<p>「乱暴で凍らせる氷の神様」をつくりたいと願い、目や角の形をとがった形にし、切り込みを入れてつくっていかうと見通しをもち、製作に取り組んでいた。また、教師の参考資料へ出向き、段ボールの張り合わせ方を自分の表現に取り入れながら活動していた。</p>	<p>本時の導入で提示された段ボールを筒に丸めることに興味を示し、筒に丸めた角をつくったが、自分の神様にどう生かしていくかの見通しがもてず、つくった角で遊びがちであった。教師が「その角をここに貼り付けると、どんな感じがするかな。」と一緒に考えて、「そうだ、もう一本つくって、牙にしよう。」と製作に見通しをもち、意欲的に取り組むことができた。</p>

【発想や構想の能力】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
<p>&lt;イー&gt; 自分の表したい神様の感じがよく出るように、全体の色や形、目や鼻などの部分のつくり方や配置を構想する。</p>	<p>「優しい雲の神」の感じを出そうと、はり付ける飾りを淡い色の色画用紙でついたり、片面段ボールを巻いたり、波状に貼り付けたりすることをどんどん思いつき、製作を進めた。</p> 	<p>「怒りん坊の山の神」をつくらうとし、山の形をついたり、木の形を貼り付けたりして満足してしまい、製作が停滞気味であった。教師が「もっと怒った感じにするには、目や口の形、飾りをどうするのかな。」と問いかけるとともに、同じような「怒</p>

		った感じ」を出そうとしている児童の作品を参考にするように促すと、「そうだ、もっと目や口をとがらせよう。」 「角や髭の飾りも付けよう。」と次々に発想を膨らませていった。
--	--	--

【創造的な技能】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
<p>&lt;ウー &gt; 表したい感じに合わせて、段ボールによる表現を生かし、目や鼻、口などの部分をつくったり、飾りを付けたりする。</p>	<p>授業の導入で提示された段ボールのいろいろな加工例の中から、片面段ボールの効果を取り入れようとした。そして、片面段ボールを貼るのではなく、お面の表面の一部をカッターナイフではがして片面段ボール状にしながら、顔の表面の飾りをつくっていった。</p> 	<p>お面の表面をくりぬいて模様をつけようとしたが、カッターナイフが立ちすぎており、うまく切れずにぼろぼろになってしまった。教師が「カッターナイフをもう少し倒すとうまく切れるよ。」と指導すると、うまく切り取ることができた。</p>

【鑑賞の能力】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
<p>&lt;エー &gt; 自他の作品の発想や表し方のよいところを交流し合い、表現のよいところを具体的に見付け、味わう。</p>	<p>グループ交流会で、班の友達作品を見ながら、「A子さんは、片面段ボールを細長く切って、くるくる丸めてかわいい感じを出しているね。先のところが丸く丸めてあるのがいいね。そうだ、ぼくのは三角にとがらせよう。」と、表現のよいところを具体的に見付け、自分の表現に取り入れようとした。</p>	<p>「B子さんはかわいくできているね。」と友達の作品の感想を述べている児童に、教師が「どこの色や形がかわいんだらうね。」と投げかけることで、「だって、目の向きやほっぺにある片面段ボールのくるくるがかわいいでしょ。」と、仲間の表現のよさに具体的に気付くことができた。</p>

## 6 参考資料

<資料1> 題材への見通しをもつことができる教師による作例

<資料2> 題材への見通しをもつことができる児童作例（過年度の児童作品の写真）

<資料3> 世界の神様のお面や像の写真（装飾例）（鑑賞資料）

<資料4> 目・鼻・口などの配置の違いによる感じの違いの比較資料

<資料5> 段ボールによるいろいろな表現方法



<資料1>



<資料2>



<資料3>



<資料5>



<資料4>